



2021年4月5日

各 位

会 社 名 第 一 三 共 株 式 会 社
代 表 者 代 表 取 締 役 社 長 眞 鍋 淳
(コ ー ド 番 号 4 5 6 8 東 証 第 1 部)
問 合 せ 先 コ ー ポ レ ー ト コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 部 長 大 沼 純 一
TEL 報 道 関 係 者 の 皆 様 03-6225-1126
株 式 市 場 関 係 者 の 皆 様 03-6225-1125

第5期中期経営計画説明会の開催について

第一三共株式会社（本社：東京都中央区、以下「当社」）は、第5期中期経営計画（2021年度～2025年度）を策定しましたので、2021年4月5日（月）16時より、説明会を開催いたします。

代表取締役社長 兼 CEO 眞鍋 淳が、機関投資家・証券アナリスト・報道機関の皆様に対し、当該計画についてご説明いたします。

説明会の模様は、オンライン配信でご覧いただけます。また後日、オンデマンドでも配信いたします。

当社ウェブサイト（https://www.daiichisankyo.co.jp/investors/ir_news/detail/index_6587.html）にてご視聴ください。

別添：プレゼンテーション資料

以 上

Passion for Innovation.
Compassion for Patients.™



第5期中期経営計画 (2021年度 - 2025年度)

第一三共株式会社

代表取締役社長 兼 CEO

眞鍋 淳

2021年 4月 5日

将来の見通しに関する注意事項

本書において当社が開示する経営戦略・計画、業績予想、将来の予測や方針に関する情報、研究開発に関する情報等につきましては、全て将来を見込んだ見解です。これらの情報は、開示時点で当社が入手している情報に基づく一定の前提・仮定及び将来の予測等を基礎に当社が判断したものであり、これらには様々なリスク及び不確実性が内在しております。従いまして、実際の当社の業績は、当社の見解や開示内容から大きくかい離する可能性があることをご留意願います。また、本書において当初設定した目標は、全て実現することを保証しているものではありません。なお、実際の結果等にかかわらず、当社は本書の日付以降において、本書に記述された内容を随時更新する義務を負うものではなく、かかる方針も有していません。

本書において当社が開示する開発中の化合物は治験薬であり、開発中の適応症治療薬としてFDA等の規制当局によって承認されてはおりません。これらの化合物は、対象地域においてまだ有効性と安全性が確立されておらず、開発中の適応症で市販されることを保証するものではありません。

当社は、本書に記載された内容について合理的な注意を払うよう努めておりますが、記載された情報の内容の正確性、適切性、網羅性、実現可能性等について、当社は何ら保証するものではありません。また、本書に記載されている当社グループ以外の企業・団体その他に係る情報は、公開情報等を用いて作成ないし記載したものであり、かかる情報の正確性、適切性、網羅性、実現可能性等について当社は独自の検証を行っておらず、また、これを何ら保証するものではありません。

本書に記載の情報は、今後予告なく変更されることがあります。従いまして、本書又は本書に記載の情報の利用については、他の方法により入手した情報とも照合し、利用者の判断においてご利用ください。

本書は、米国又は日本国内外を問わず、いかなる証券についての取得申込みの勧誘又は販売の申込みではありません。

本書は投資家判断の参考となる情報の公開のみを目的としており、投資に関する最終決定はご自身の責任においてご判断ください。

当社は、本書に記載された情報の誤り等によって生じた損害について一切責任を負うものではありません。

本日本話する内容

① 当社のESG経営

② 2030年ビジョン

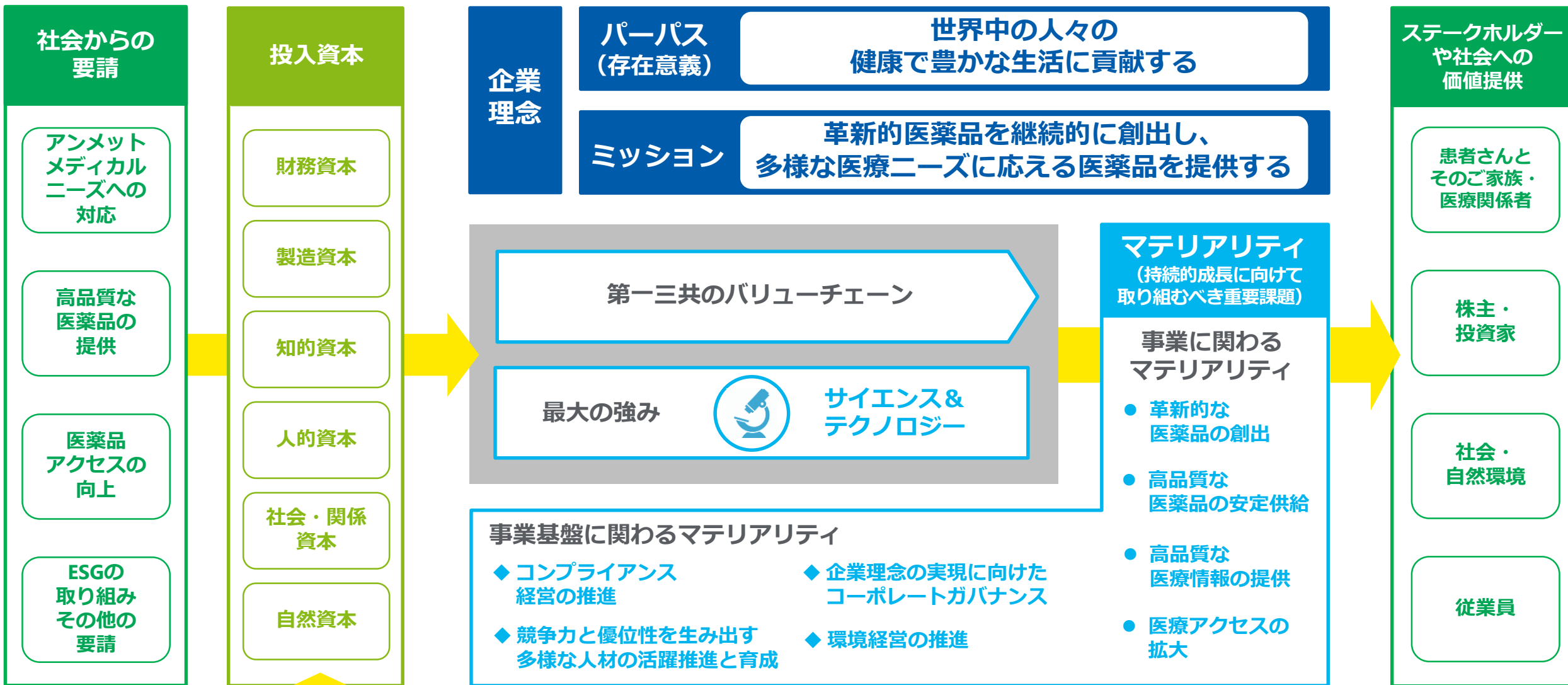
③ 第4期中期経営計画の振り返り

④ 第5期中期経営計画

⑤ Appendix



第一三共の価値創造プロセスとESG経営



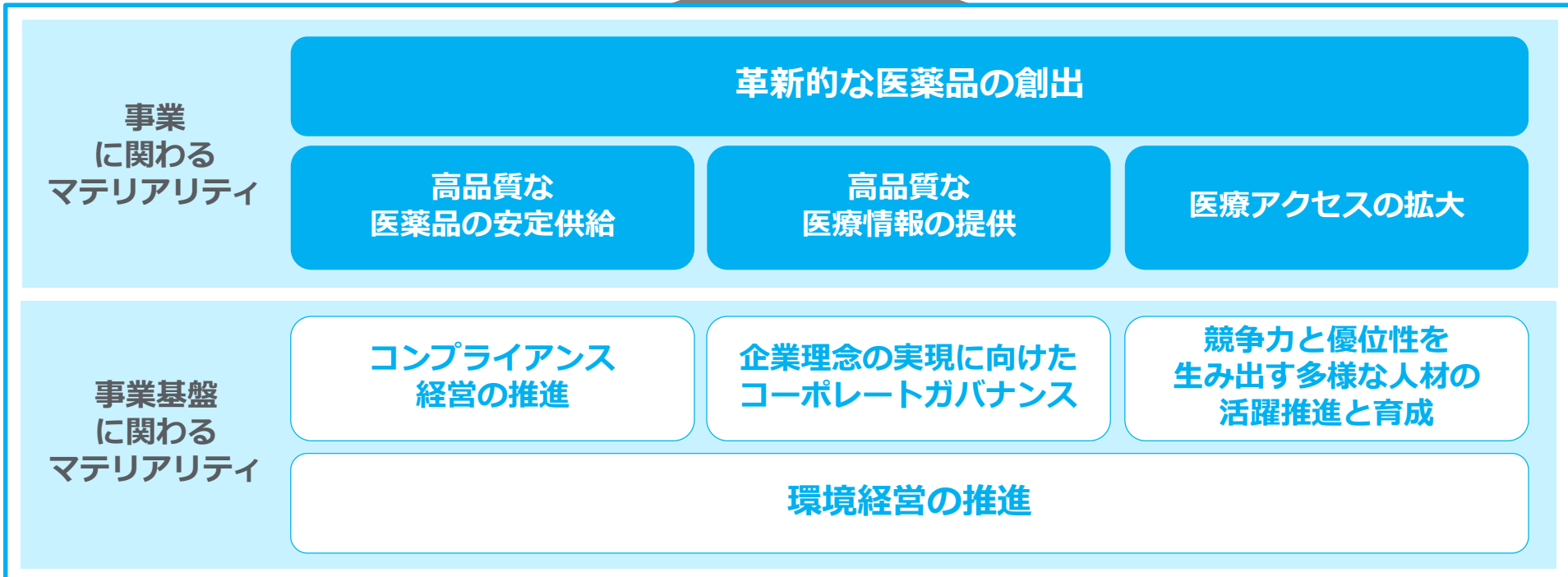
価値創造の循環による持続的な価値創造

マテリアリティ

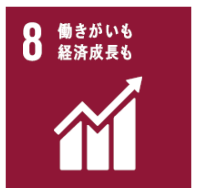
～持続的成長に向けて取り組むべき重要課題～

- ◆ 当社の中長期的な企業価値へ影響を及ぼす重要度と社会からの期待の両面からマテリアリティを特定
- ◆ マテリアリティへの取り組みを通じてSDGsへ貢献

価値創造プロセスを通じて当社がステークホルダーや社会に提供する価値



SDGs目標



① 当社のESG経営

② **2030年ビジョン**

③ 第4期中期経営計画の振り返り

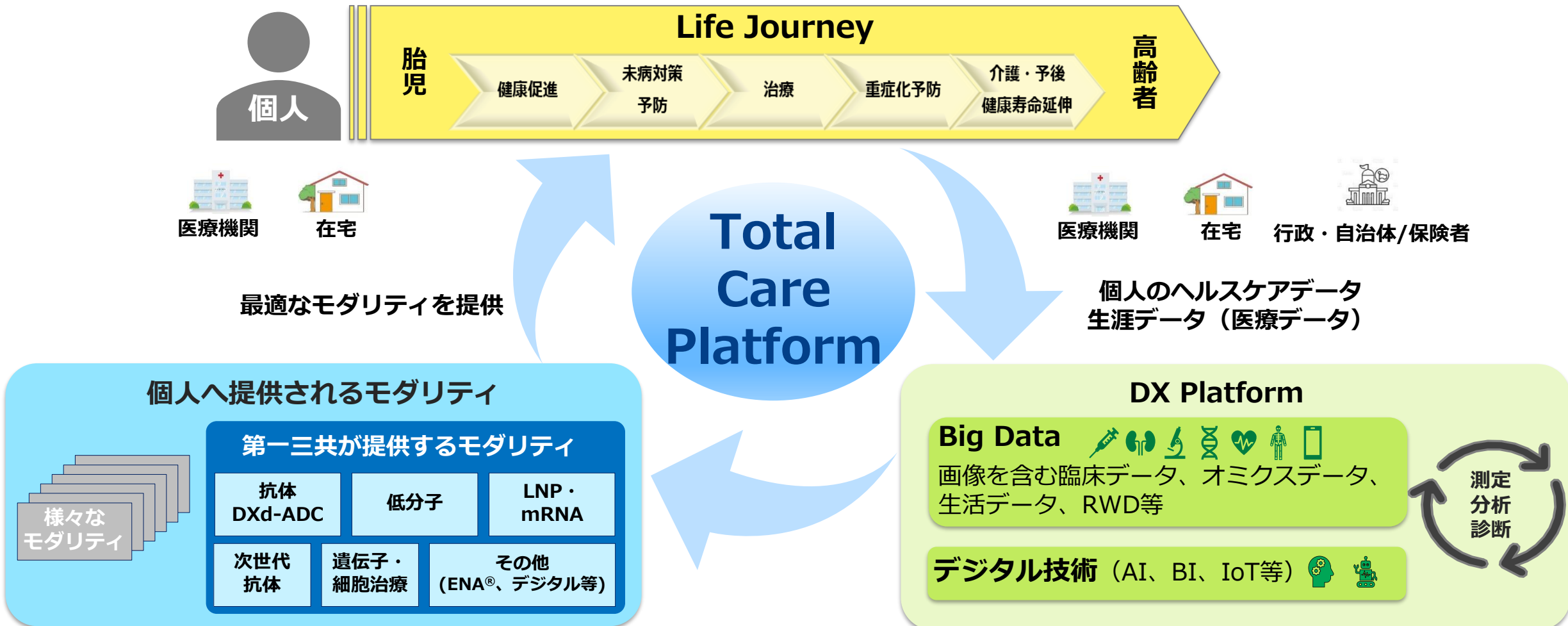
④ 第5期中期経営計画

⑤ Appendix



外部環境と当社の提供価値

個人のLife Journeyにあわせて、製薬・従来のヘルスケアの枠を超えたTotal Careが提供される中、当社はサイエンス&テクノロジーの強みを生かして、最適なモダリティを提供していく



パーパス

世界中の人々の
健康で豊かな生活に貢献する

2030年
ビジョン

サステナブルな社会の発展に貢献する
先進的グローバルヘルスケアカンパニー

第一三共グループは、パーパスの実現に向けて、当社に期待される社会課題の解決（革新的医薬品の創出、SDGsへの取り組みなど）をめざし、われわれの強みである“サイエンス&テクノロジー”に基づき、イノベーティブなソリューション提供に挑戦し続けます

① 当社のESG経営

② 2030年ビジョン

③ **第4期中期経営計画の振り返り**

④ 第5期中期経営計画

⑤ Appendix



第4期中計の振り返り：主な進捗（6つの戦略目標と株主還元）

がん事業の立上げ・確立

- ◆ エンハーツの上市、新適応取得
- ◆ エンハーツ、Dato-DXdのアストラゼネカとの戦略的提携の締結
- ◆ 3ADCの開発進展



エドキサバンの成長

- ◆ グローバル売上収益の拡大（売上収益1,000億円を2年前倒しで達成）
- ◆ 日本における市場シェアNo.1を獲得
- ◆ 欧州、アジア各国における市場シェアの拡大



日本No.1カンパニーとして成長

- ◆ 国内医療用医薬品売上シェア4年連続No.1を獲得
- ◆ 自社開発品の上市（タリージェ等）
- ◆ 良質な導入品の獲得（エムガルティ等）



米国事業の拡大

- ◆ エンハーツの上市
- ◆ アメリカン・リージェント事業の拡大
- ◆ 疼痛事業の見直し

SOC*を革新する 先進的医薬品の継続的創出

- ◆ 後期開発パイプライン価値の拡大
- ◆ 多様なモダリティを活用した創薬の進展（核酸医薬、細胞治療、遺伝子治療など）



利益創出力の強化

- ◆ グローバル生産・研究開発体制の最適化（2拠点譲渡、5拠点閉鎖）
- ◆ 欧米の営業体制の最適化
- ◆ ノンコア資産（不動産、長期収載品事業）の譲渡
- ◆ ADCへの投資先行

株主還元

- ◆ 期間中の総還元性向100%以上
- ◆ 自己株式取得の実施（総額2,000億円）
- ◆ 増配・株式分割の実施



* Standard of Careの略。現在の医学では最善とされ、広く用いられている治療法

エンハーツの上市、新適応取得

- ◆ HER2陽性乳がん 3次治療
 - 米国上市 (2020年1月)
 - 日本上市 (2020年5月)
 - 欧州承認 (2021年1月)
- ◆ HER2陽性胃がん 3次治療
 - 日本上市 (2020年9月)
- ◆ HER2陽性胃がん 2次治療
 - 米国上市 (2021年1月)



アストラゼネカとの戦略的提携

- ◆ エンハーツ (2019年3月)
 - 受領対価：
最大69億ドル (7,590億円*)
- ◆ Dato-DXd (2020年7月)
 - 受領対価：
最大60億ドル (6,660億円*)

* \$1 = 110円換算



3ADCの開発進展

- ◆ エンハーツ
 - フェーズ3： 7試験
 - フェーズ2 (申請用)： 4試験
 - フェーズ2： 6試験
 - フェーズ1等： 7試験
- ◆ Dato-DXd
 - フェーズ3： 1試験
 - フェーズ2 (申請用)： 1試験
 - フェーズ1等： 4試験
- ◆ HER3-DXd
 - フェーズ2 (申請用)： 1試験
 - フェーズ2： 1試験
 - フェーズ1等： 3試験

2021年3月31日現在進行中の試験数

第4期中計の振り返り：主な進捗（6つの戦略目標と株主還元）

がん事業の立上げ・確立

- ◆ エンハーツの上市、新適応取得
- ◆ エンハーツ、Dato-DXdのアストラゼネカとの戦略的提携の締結
- ◆ 3ADCの開発進展



エドキサバンの成長

- ◆ グローバル売上収益の拡大（売上収益1,000億円を2年前倒しで達成）
- ◆ 日本における市場シェアNo.1を獲得
- ◆ 欧州、アジア各国における市場シェアの拡大



日本No.1カンパニーとして成長

- ◆ 国内医療用医薬品売上シェア4年連続No.1を獲得
- ◆ 自社開発品の上市（タリージェ等）
- ◆ 良質な導入品の獲得（エムガルティ等）



米国事業の拡大

- ◆ エンハーツの上市
- ◆ アメリカン・リージェント事業の拡大
- ◆ 疼痛事業の見直し

SOC*を変革する 先進的医薬品の継続的創出

- ◆ 後期開発パイプライン価値の拡大
- ◆ 多様なモダリティを活用した創薬の進展（核酸医薬、細胞治療、遺伝子治療など）



利益創出力の強化

- ◆ グローバル生産・研究開発体制の最適化（2拠点譲渡、5拠点閉鎖）
- ◆ 欧米の営業体制の最適化
- ◆ ノンコア資産（不動産、長期収載品事業）の譲渡
- ◆ ADCへの投資先行

株主還元

- ◆ 期間中の総還元性向100%以上
- ◆ 自己株式取得の実施（総額2,000億円）
- ◆ 増配・株式分割の実施



* Standard of Careの略。現在の医学では最善とされ、広く用いられている治療法

第4期中計の振り返り：計数目標

米国疼痛事業の見直し、ADCへの投資先行の影響等により、
2018年度に計画を見直し

	2020年度見込*	2020年度計数目標	2022年度計数目標
● 売上収益	9,600億円	1兆1,000億円	1兆1,000億円
● 営業利益	600億円	1,650億円	1,650億円
● ROE	4.4%	8%以上	8%以上
● 総還元性向 (期間中)	111.8%	100%以上	100%以上
● 配当	年間81円	年間70円以上	年間70円以上

* 売上収益、営業利益：当社開示 2020年度業績予想
ROE、総還元性向：社内試算値
配当：株式分割前ベースで試算

第4期中計の振り返り：企業価値の向上

過去5年で当社株価は大幅に上昇



① 当社のESG経営

② 2030年ビジョン

③ 第4期中期経営計画の振り返り

④ **第5期中期経営計画**

⑤ Appendix



持続的成長に向けた第5期中計の位置付け

ESG経営のもと、第5期中計期間は2025年ビジョン
がんに強みを持つ先進的グローバル創薬企業を実現し、
2030年ビジョン達成に向けた成長ステージに移行

2030年ビジョン

サステナブルな社会の
発展に貢献する
先進的グローバル
ヘルスケアカンパニー

2021-2025
第5期中計

2025年ビジョンを
実現し
成長ステージへ

2020年現在

- ◆ がん事業立ち上げ
- ◆ エドキサバン拡大
- ◆ リージョナル・バリュー拡大
- ◆ AZアライアンス
- ◆ 研究開発投資拡大

- ◆ がん領域でグローバル top10
- ◆ 更なる成長の柱が収益源の一つ
- ◆ 各事業ユニットが新製品を軸とした収益構造
- ◆ 事業を通じたサステナブルな社会の発展への貢献

2025年ビジョンを実現し成長ステージへ

2025年度計数目標

- ◆ 売上収益：1兆6,000億円（がん領域：6,000億円以上）
- ◆ ROE：16%以上
- ◆ R&D費控除前営業利益率：40%
- ◆ DOE*：8%以上

3ADC最大化の実現

- ◆ アストラゼネカとの戦略的提携を通じたエンハーツ、Dato-DXd最大化
- ◆ HER3-DXdの自社開発と最大化
- ◆ 製品ポテンシャルに合わせた効率的・段階的な要員・供給キャパシティ拡大

既存事業・製品の利益成長

- ◆ リクシアナ利益最大化
- ◆ タリージェ、Nilemdo等の早期拡大
- ◆ 新薬を軸とした収益構造へのトランスフォーメーション
- ◆ アメリカン・リージェント、第一三共ヘルスケアの利益成長

更なる成長の柱の見極めと構築

- ◆ 3ADCに次ぐ成長ドライバーの見極め
- ◆ ポストDXd-ADCモダリティの選定

ステークホルダーとの価値共創

- ◆ 患者さん：Patient Centric Mindsetによる患者さんへの貢献
- ◆ 株主：バランスのとれた成長投資と株主還元
- ◆ 社会：バリューチェーン全体の環境負荷の低減、およびパンデミックリスクへの対応
- ◆ 従業員：One DS Cultureの醸成に向けたCore behaviorの実践

- ◆ DX推進によるデータ駆動型経営の実現と先進デジタル技術による全社の変革
- ◆ 新たなグローバルマネジメント体制による迅速な意思決定の実現

*DOE：株主資本配当率 = 配当総額 ÷ 株主資本（親会社の所有者に帰属する持分）

第5期中期経営計画

- ① 戦略の柱 1 : 3ADC最大化の実現
- ② 戦略の柱 2 : 既存事業・製品の利益成長
- ③ 戦略の柱 3 : 更なる成長の柱の見極めと構築
- ④ 戦略の柱 4 : ステークホルダーとの価値共創
- ⑤ DX推進によるデータ駆動型経営の実現と先進デジタル技術による全社の変革
- ⑥ バランスのとれた成長投資と株主還元
- ⑦ 2025年度の計数目標

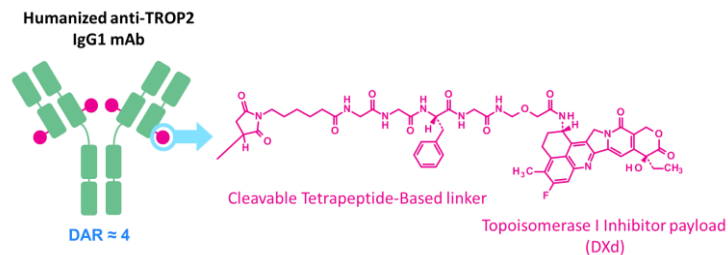
乳がんとNSCLC*を中心に、より多くのがん患者さんにSOCを変革する新たな治療ソリューションを提供し、製品価値を最大化

エンハーツ®



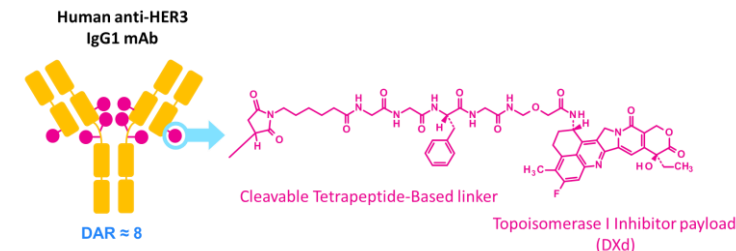
- ◆ AZとの戦略的提携を通じた市場浸透と新適応の追加
- ◆ 競合品に対する優位性の確立
- ◆ HER2低発現コンセプトの定着

Dato-DXd



- ◆ AZとの戦略的提携を通じた承認取得と適応症の追加
- ◆ 効果的な上市計画の策定と実行
- ◆ 競合品に対する優位性の確立

HER3-DXd



- ◆ 自社開発による最速上市
- ◆ 効果的な上市計画の策定と実行
- ◆ がん治療ターゲットとしてのHER3の確立

- ◆ ILDのモニタリングを通じた適正使用の促進
- ◆ 製品ポテンシャルに合わせた効率的・段階的な要員および供給キャパシティの拡大

3ADCで幅広いがん種/適応での上市を目指す

第5期中計 (FY2021~ FY2025)

エンハーツ

 DESTINY-Breast03

 DESTINY-Breast04

 DESTINY-Breast06

 DESTINY-Gastric04

 DESTINY-Lung01/02

 DESTINY-CRC01/02

Dato-DXd

 TROPION-Lung01

HER3-DXd

 HERTHENA-Lung01

Present

エンハーツ

 DESTINY-Breast01

 DESTINY-Gastric01

FY2026 & Beyond

エンハーツ

 DESTINY-Breast05

 DESTINY-Breast09

- ・ 乳がん 術前/術後
- ・ 乳がん/胃がん/NSCLC/大腸がんの早期ライン (併用含む)
- ・ その他のがん種

Dato-DXd


- ・ NSCLC 早期ライン I/O併用
- ・ 乳がん (HER2陰性)
- ・ その他のがん種


HER3-DXd

- ・ NSCLC 早期ライン
オシメルチニブとの併用
- ・ その他のがん種

3ADC：第5期中計期間中における乳がん・NSCLCへの貢献

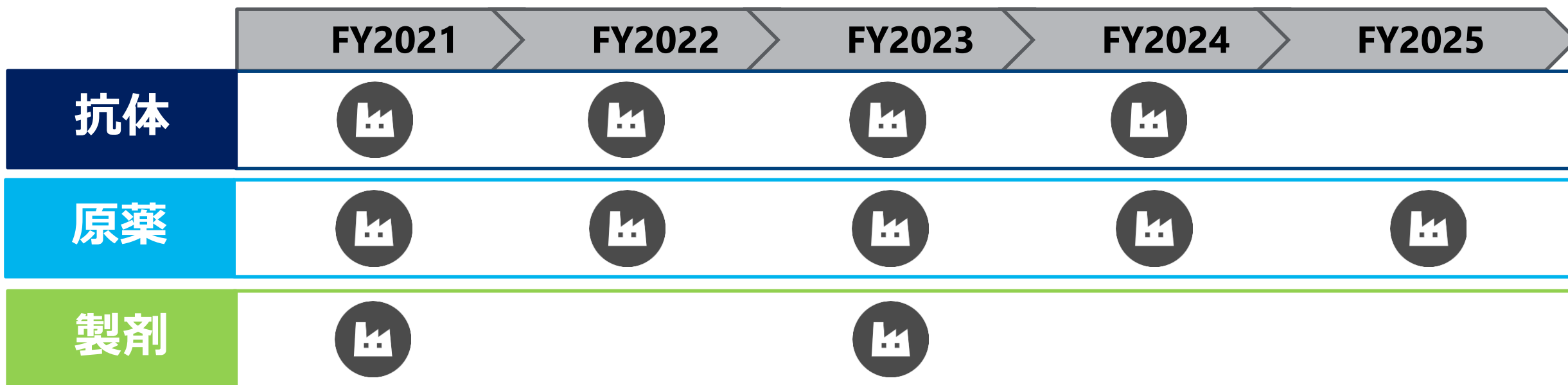
乳がんとNSCLCのほぼ全てのサブタイプの患者さんに対して
3ADCを治療選択肢として提供可能に

	HR陽性	HR陰性
HER2陽性	エンハーツ	
HER2低発現	エンハーツ	
HER2陰性	Dato-DXd	

	
変異なし	Dato-DXd
EGFR変異	HER3-DXd
HER2変異 HER2陽性	エンハーツ

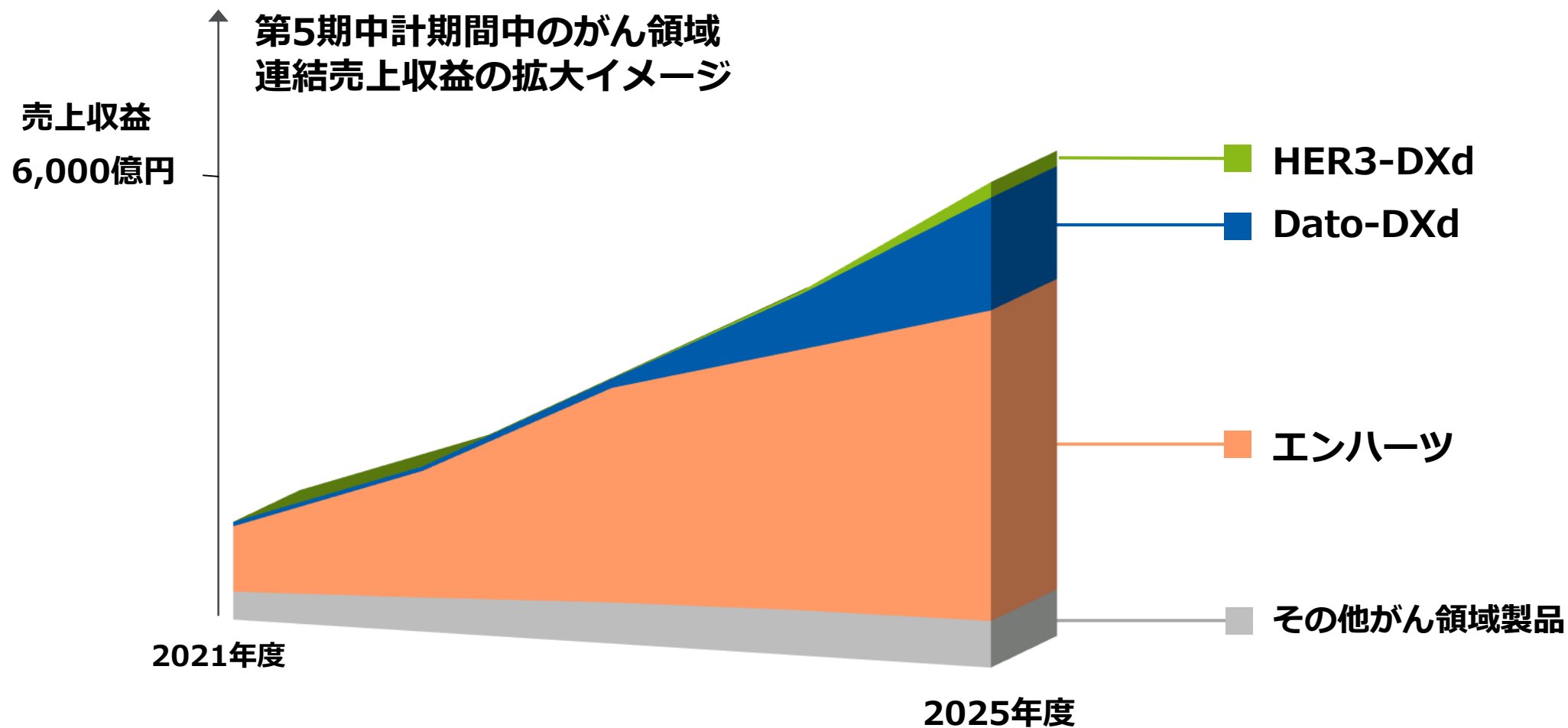
ADC生産体制の強化

- ◆最大3,000億円の設備投資・CMO投資を行いADCの供給キャパシティを拡大
- ◆自然災害やパンデミック等の有事においても安定供給可能なレジリエンスを持つグローバル生産・供給体制を強化



3,000億円の設備投資の規模はそれぞれ異なる

3ADCの最大化により、2025年度売上収益 6,000億円以上を目指す

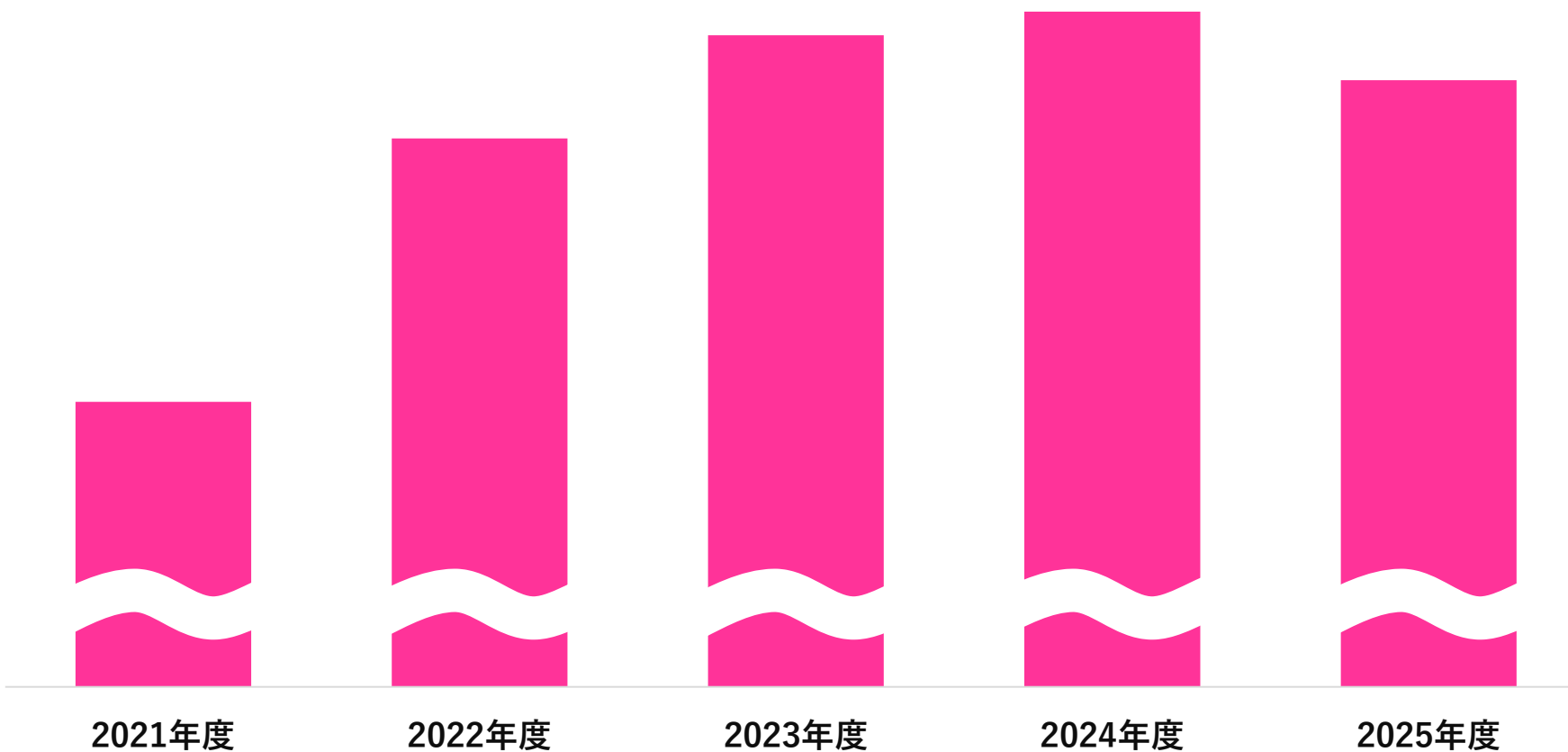


第5期中期経営計画

- ① 戦略の柱 1 : 3ADC最大化の実現
- ② **戦略の柱 2 : 既存事業・製品の利益成長**
- ③ 戦略の柱 3 : 更なる成長の柱の見極めと構築
- ④ 戦略の柱 4 : ステークホルダーとの価値共創
- ⑤ DX推進によるデータ駆動型経営の実現と先進デジタル技術による全社の変革
- ⑥ バランスのとれた成長投資と株主還元
- ⑦ 2025年度の計数目標

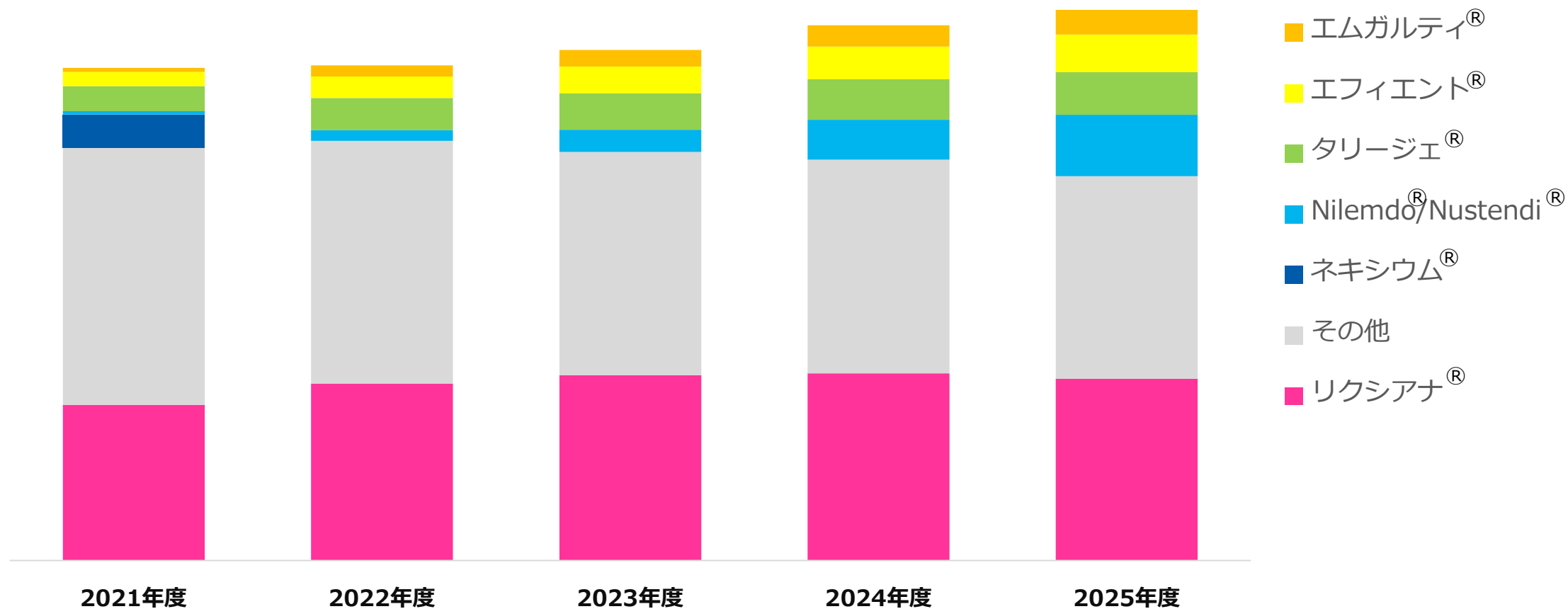
ピーク時2,200億円以上の売上収益を達成し、安定利益を生み出す製品へ

連結売上収益拡大イメージ



新製品の早期拡大を通じて、がん以外の領域においても新薬事業を拡大

連結売上収益拡大イメージ



新薬を軸とした収益構造へのトランスフォーメーション

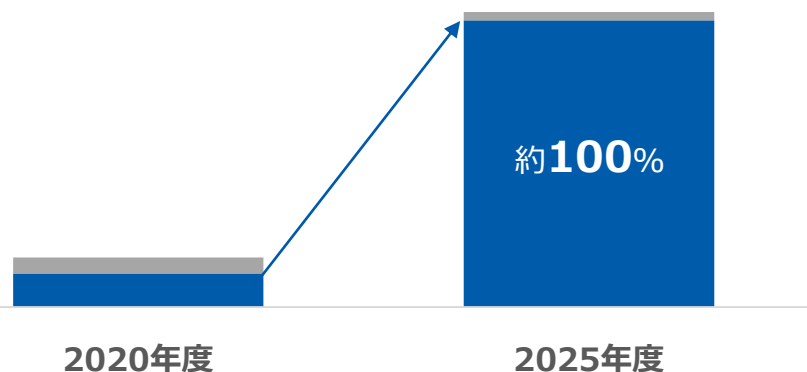
米国、欧州では、新薬を軸とした収益構造を更に強化し、持続的な成長を支える事業構造へ転換

米国

アメリカン・リージェント除く

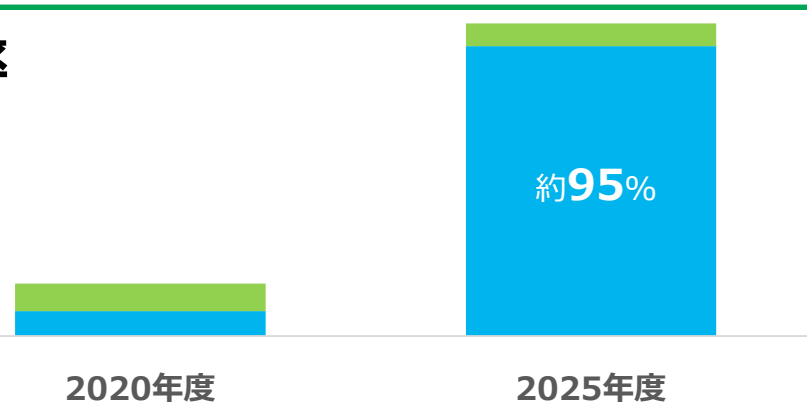
新薬比率

■ 新薬以外
■ 新薬



がん売上比率

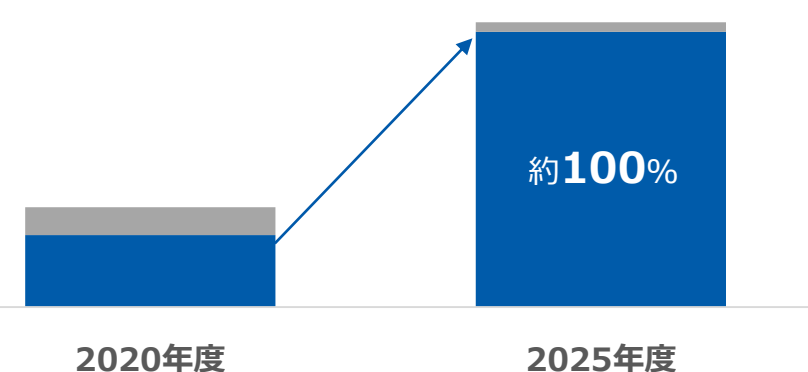
■ がん以外
■ がん



欧州

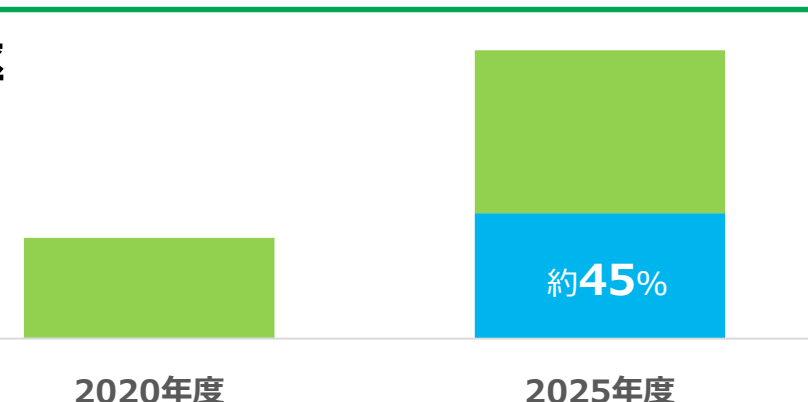
新薬比率

■ 新薬以外
■ 新薬



がん売上比率

■ がん以外
■ がん



新薬を軸とした収益構造へのトランスフォーメーション

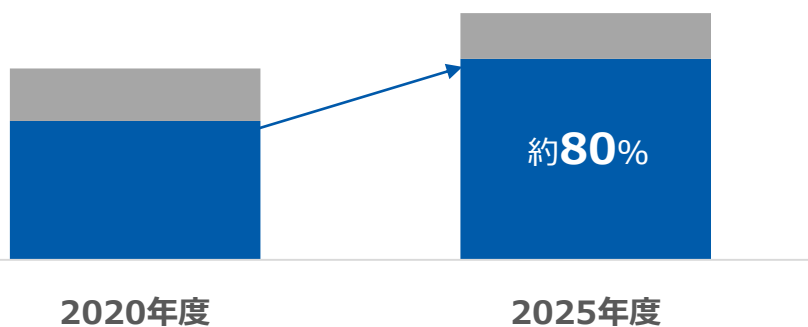
日本も新薬比率が拡大、
ASCAは各国の事業環境を見極め、長期的に新薬を軸とした事業構造へ転換

日本

第一三共ヘルスケア、
第一三共エスファ除く

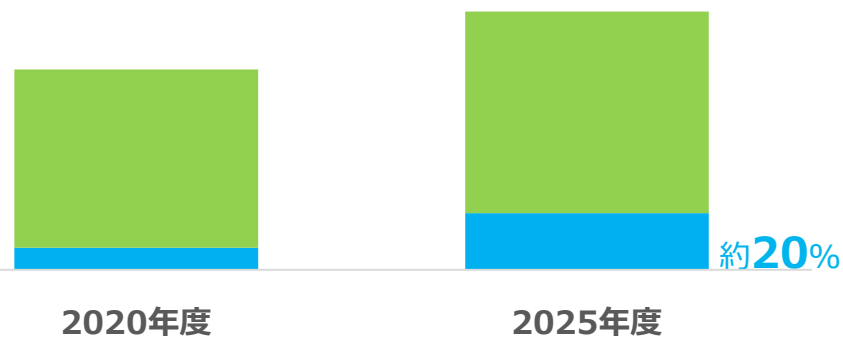
新薬比率

■ 新薬以外
■ 新薬



がん売上比率

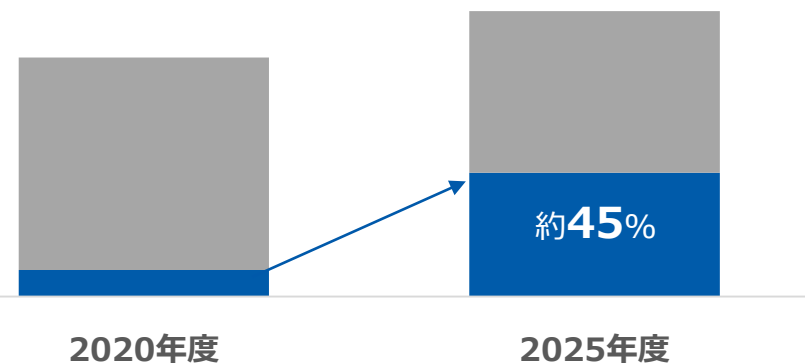
■ がん以外
■ がん



ASCA*

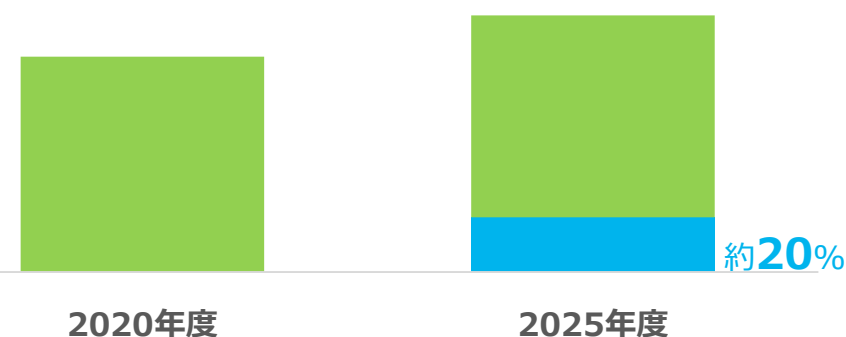
新薬比率

■ 新薬以外
■ 新薬



がん売上比率

■ がん以外
■ がん



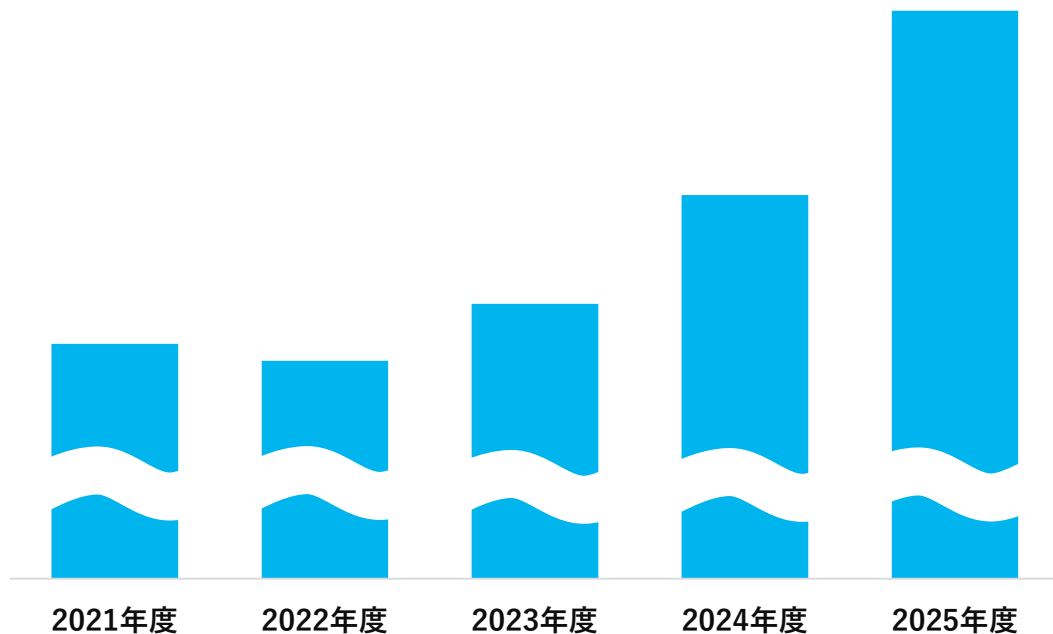
* アジア/中南米

アメリカン・リージェント、第一三共ヘルスケアの利益成長

アメリカン・リージェント

インジェクタファー[®]、ジェネリック注射剤を中心とした
更なる成長

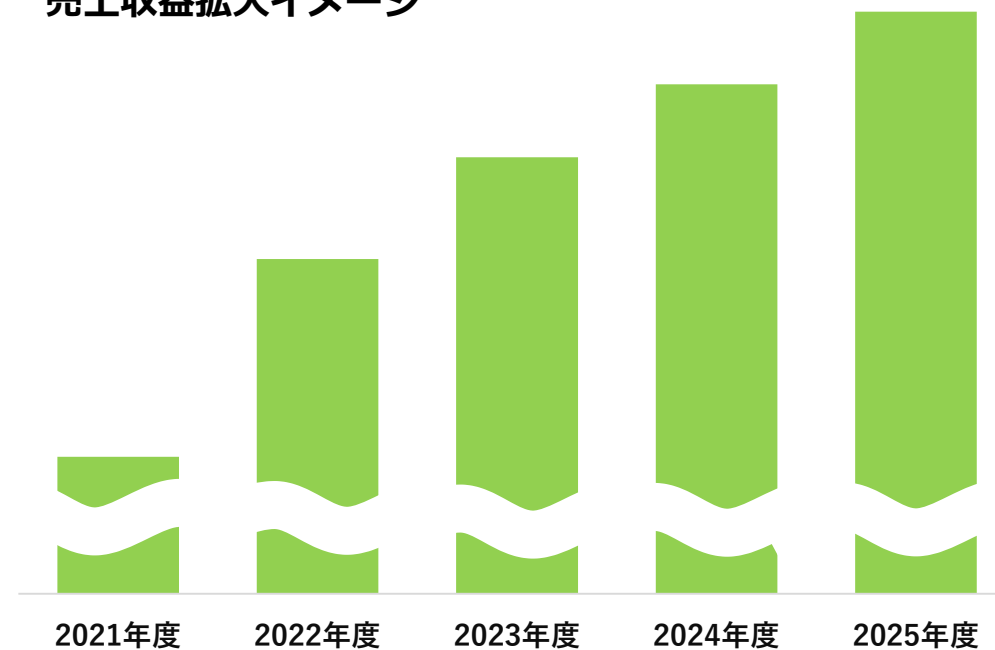
売上収益拡大イメージ



第一三共ヘルスケア

国内店舗販売、通販事業を中心とした
更なる成長

売上収益拡大イメージ



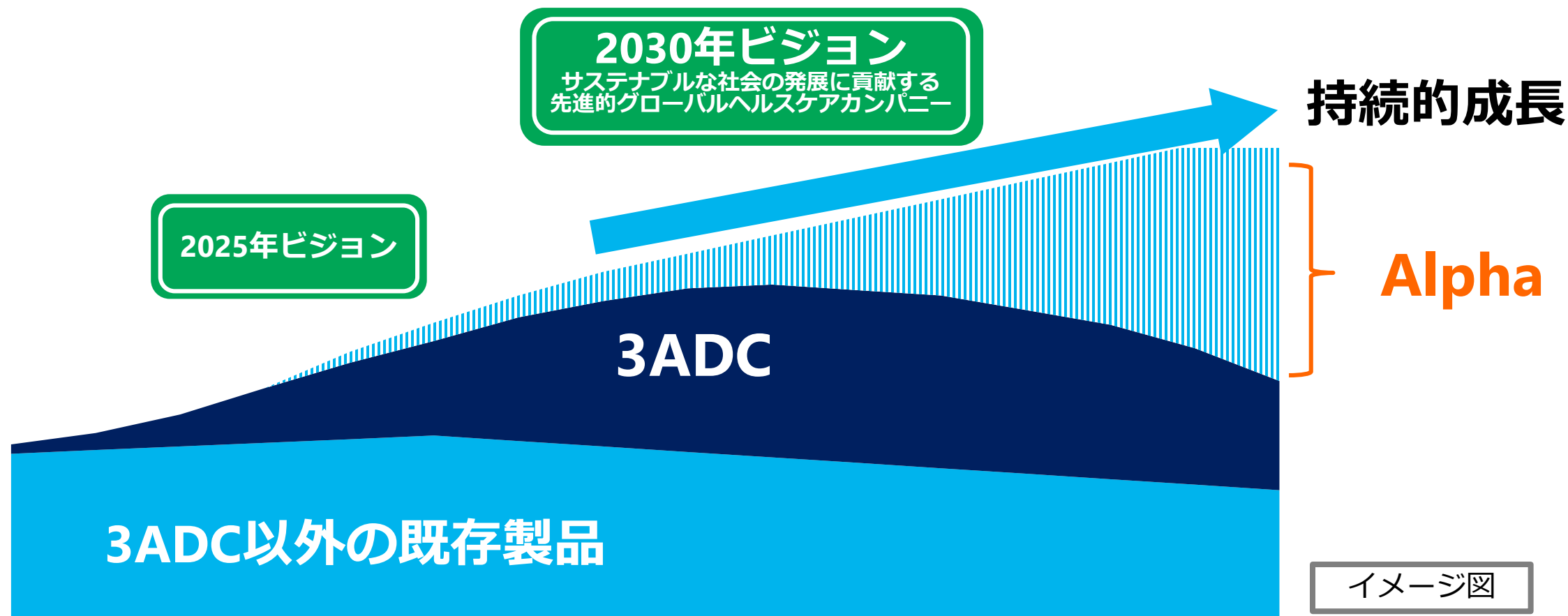
第5期中期経営計画

- ① 戦略の柱 1 : 3ADC最大化の実現
- ② 戦略の柱 2 : 既存事業・製品の利益成長
- ③ 戦略の柱 3 : 更なる成長の柱の見極めと構築**
- ④ 戦略の柱 4 : ステークホルダーとの価値共創
- ⑤ DX推進によるデータ駆動型経営の実現と先進デジタル技術による全社の変革
- ⑥ バランスのとれた成長投資と株主還元
- ⑦ 2025年度の計数目標

更なる成長の柱の確立

持続的成長のため、更なる成長の柱となる製品・モダリティを継続的に創出

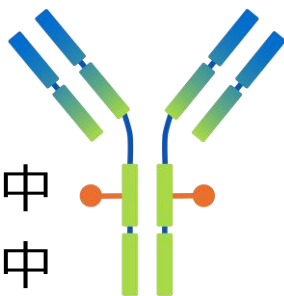
- 3ADCに次ぐ成長ドライバーの見極め
- ポストDXd-ADCモダリティの選定



3ADC以外の既存製品の売上推移は、2026年度以降一定の割合で低下していくと想定

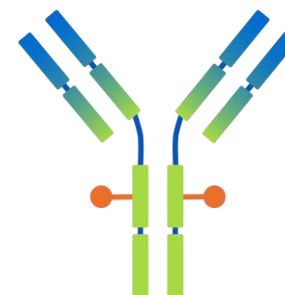
DXd-ADCファミリー

- ◆ DS-7300 : 複数の奏効例を確認
- ◆ DS-6157 : Ph1が進行中
- ◆ DS-6000 : Ph1が進行中
- ◆ DS-3939 : FIH試験に向け準備中
- ◆ DS-XXXX : FIH試験に向け準備中



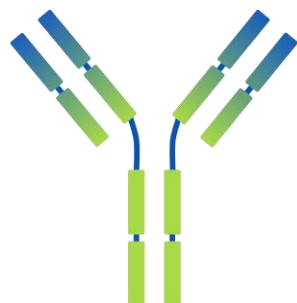
第二世代・新概念ADC

- ◆ 第二世代ADC、DS-9606
 - FIH試験に向け準備中
- ◆ 新概念ADC
 - FIH試験に向け準備中



改変型抗体等

- ◆ DS-1055 (がん免疫)
 - Ph1が進行中
- ◆ DS-1103 (がん免疫)
 - FIH試験に向け準備中
- ◆ バイスペシフィック抗体
 - FIH試験に向け準備中



ENA[®]ファミリー

- ◆ ENA技術を用いた複数プロジェクト
 - DS-5141, DS-5144, DS-5150, DS-5151, DS-5153, DS-4108, ほか



ポストDXd-ADCモダリティの選定



*自社創製品

第5期中期経営計画

- ① 戦略の柱 1 : 3ADC最大化の実現
- ② 戦略の柱 2 : 既存事業・製品の利益成長
- ③ 戦略の柱 3 : 更なる成長の柱の見極めと構築
- ④ 戦略の柱 4 : ステークホルダーとの価値共創**
- ⑤ DX推進によるデータ駆動型経営の実現と先進デジタル技術による全社の変革
- ⑥ バランスのとれた成長投資と株主還元
- ⑦ 2025年度の計数目標

Patient Centric Mindsetによる患者さんへの貢献

3ADCの様々ながん種への展開およびAlpha領域における希少疾患の比重の高まりを受け、Patient Centric Mindsetを更に重視し、パーパスを果たしていく



Patient Centric Mindset



バリューチェーン全体での取り組み強化



◆医薬品開発

- 患者団体との交流によるアンメットニーズの把握および試験計画への反映
- 社員啓発活動（医療現場での実地研修等）

◆社会貢献活動

- 患者団体への寄付、ボランティア活動



◆製剤開発

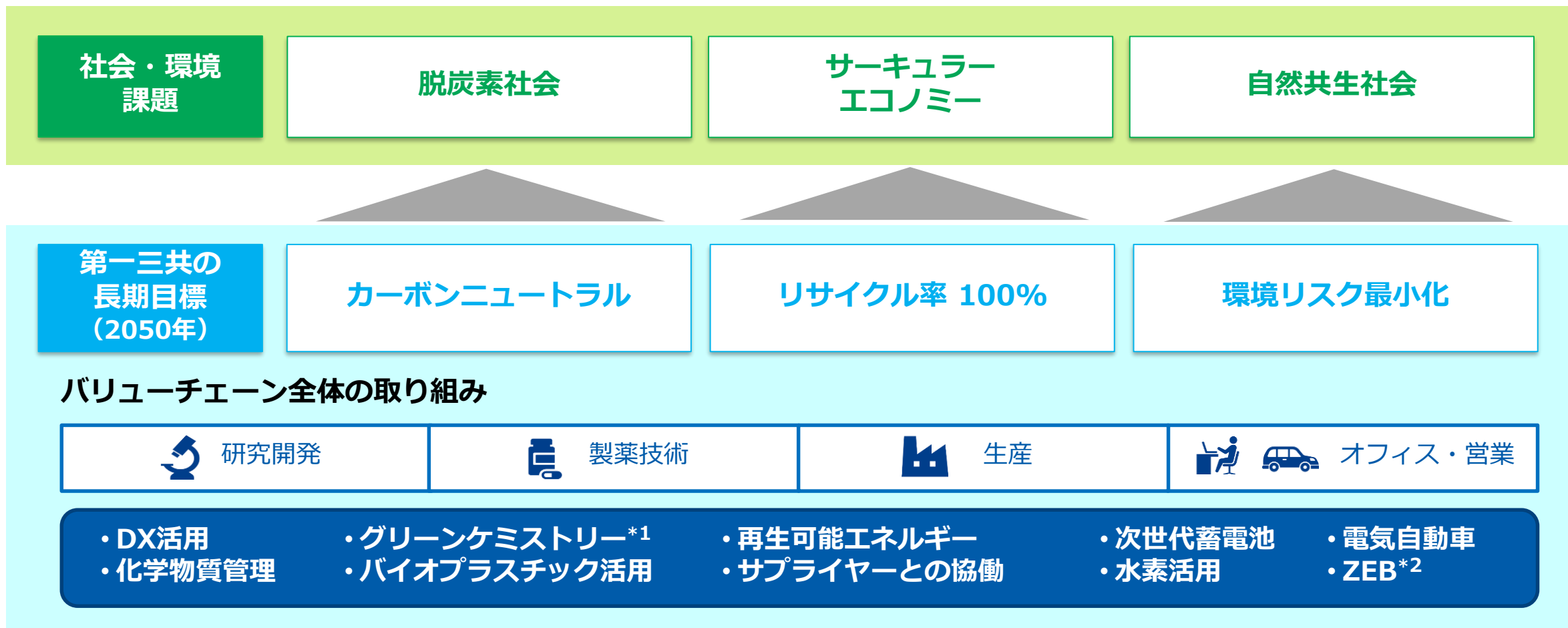
- より患者さんの立場に立った新剤形の開発

◆情報提供活動

- より分かり易く、アクセスし易い安全性情報等の提供

バリューチェーン全体の環境負荷の低減

環境負荷の低減へ向けた様々な取り組みにチャレンジし、社会・環境へ貢献



*1 環境汚染防止、原料・エネルギー消費量の削減など、地球環境の持続可能性に配慮した製造プロセス

*2 Net Zero Energy Building (ネット・ゼロ・エネルギー・ビル) の略称

COVID-19および将来の感染症の流行に備え、製薬企業の使命として技術の確立と生産体制の構築により、社会貢献を目指す

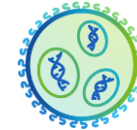
平時からの ワクチン安定供給

- ◆ 自社にワクチン生産拠点をもち、平時から安定供給
 - 季節性インフルエンザワクチン
 - 生ワクチンなど



モダリティ技術による ワクチン開発

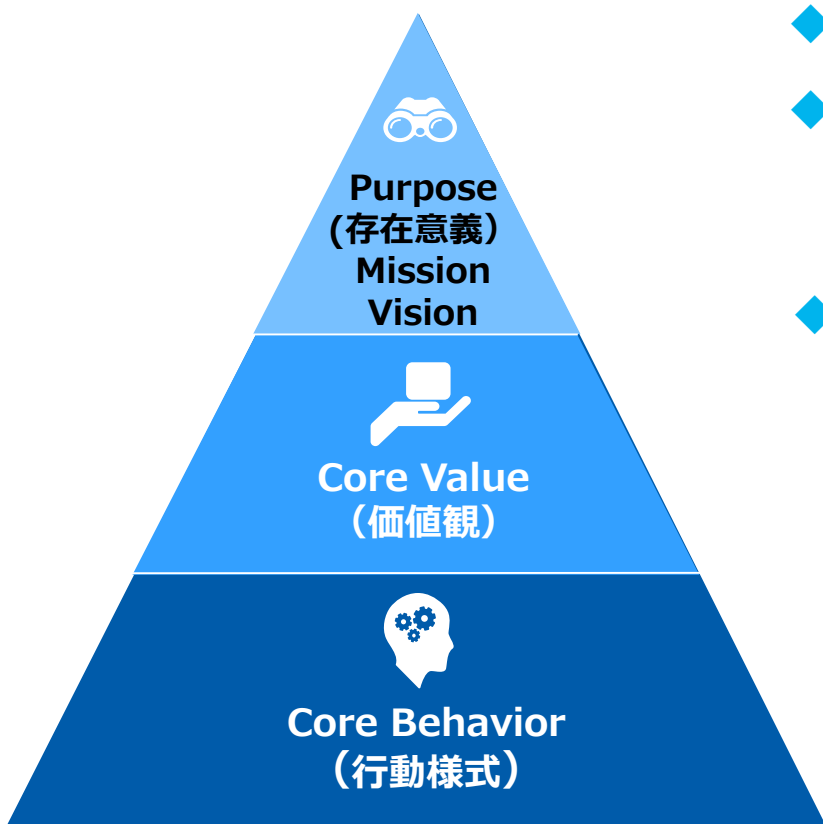
- ◆ DS-5670の開発*
 - 2021年3月よりPh1/2試験開始
 - 独自ナノ粒子によるmRNAの効率的な封入・送達により、高い薬効を実現
- ◆ COVID-19及び**将来の新興・再興感染症ワクチンにも対応可能**なプラットフォーム技術を構築



パンデミック時の ワクチン供給体制整備

- ◆ 厚生労働省の「ワクチン生産体制等緊急整備事業（第1次公募）」により、第一三共バイオテックに国産mRNAワクチン生産体制を整備
- ◆ パンデミック時に製薬業界の総力を結集して早期安定供給を実現

グループ共通の行動様式を明確にし、第一三共独自の企業文化醸成を図り、グローバル組織&人材における強みを更に強化



One DS Culture

- ◆ がん事業の拡大に伴い、多くの国・地域から多様な人材を採用
- ◆ さまざまな価値観を持つ人材が生き生きと活躍できる環境を整える必要性



- ◆ グループ共通の核となる3つの行動様式 (Core Behavior) を明確化

Be Inclusive &
Embrace Diversity

Collaborate & Trust

Develop & Grow

強化領域

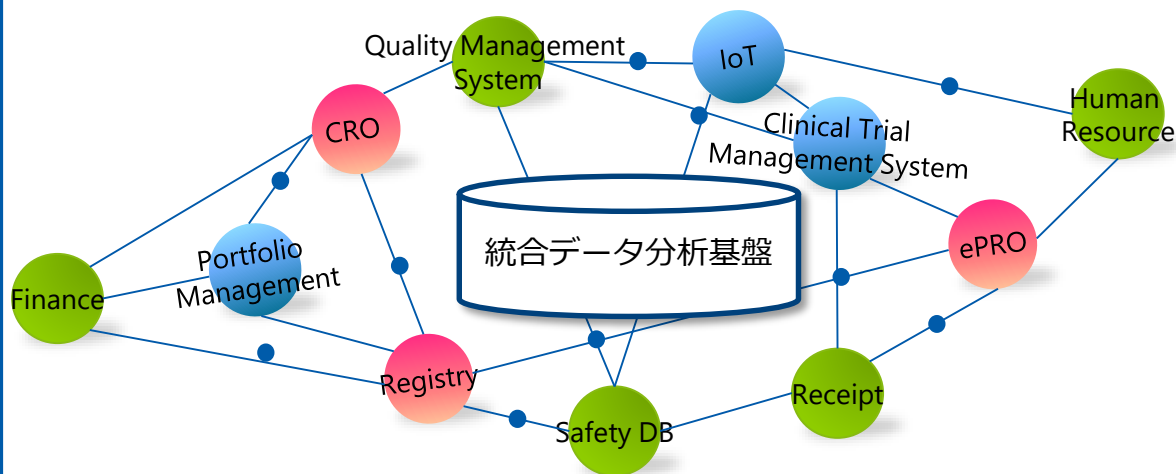
- 地域・部門間の相互理解の促進によるシナジーの創出
- 透明性および信頼をベースとした効率的な協働
- 挑戦や主体的な行動を通じた人材育成・成長

第5期中期経営計画

- ① 戦略の柱 1 : 3ADC最大化の実現
- ② 戦略の柱 2 : 既存事業・製品の利益成長
- ③ 戦略の柱 3 : 更なる成長の柱の見極めと構築
- ④ 戦略の柱 4 : ステークホルダーとの価値共創
- ⑤ **DX推進によるデータ駆動型経営の実現と先進デジタル技術による全社の変革**
- ⑥ バランスのとれた成長投資と株主還元
- ⑦ 2025年度の計数目標

DX推進によるデータ駆動型経営の実現と 先進デジタル技術による全社の変革

データ駆動型経営



デジタル技術によるバリューチェーン変革

- ◆ デジタル技術（AIやロボット等を含む）を活用し、ヒトの仕事再定義して、ワークスタイル・業務プロセスを効率化。以下事例
 - **研究**：スマートラボの実現
 - ✓ データ駆動型創薬、プロセスや分析の自動化・高度化・省力化
 - **開発**：臨床試験の効率化・高度化
 - ✓ バーチャルクリニカルトライアル、RWD・RWEの活用
 - **生産**：スマートファクトリーの実現
 - ✓ ADC製造の効率化・品質向上・予知保全
 - **営業**：デジタルマーケティングの深化
 - ✓ リアルxデジタルのシームレスなMR活動

DX推進のためのIT基盤整備

- ◆ 意思決定の加速化、ビジネス高度化と競争力強化を実現するIT基盤の確立

第5期中期経営計画

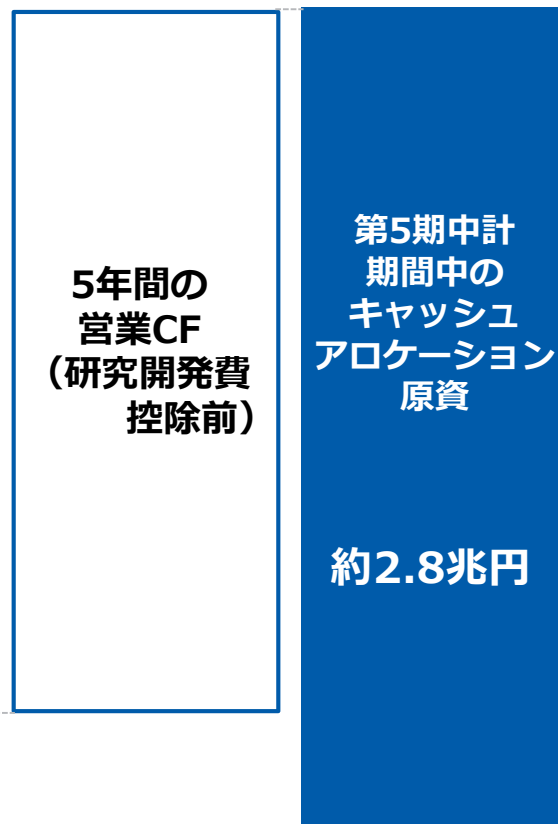
- ① 戦略の柱 1 : 3ADC最大化の実現
- ② 戦略の柱 2 : 既存事業・製品の利益成長
- ③ 戦略の柱 3 : 更なる成長の柱の見極めと構築
- ④ 戦略の柱 4 : ステークホルダーとの価値共創
- ⑤ DX推進によるデータ駆動型経営の実現と先進デジタル技術による全社の変革
- ⑥ バランスのとれた成長投資と株主還元**
- ⑦ 2025年度の計数目標

バランスのとれた成長投資と株主還元

キャッシュ・アロケーション

3ADCの研究開発・設備投資を第一優先とし、利益成長に応じた配当を行う

キャッシュ・アロケーションの規模イメージ



3ADC開発への優先投資

ADC供給体制強化を中心とした投資

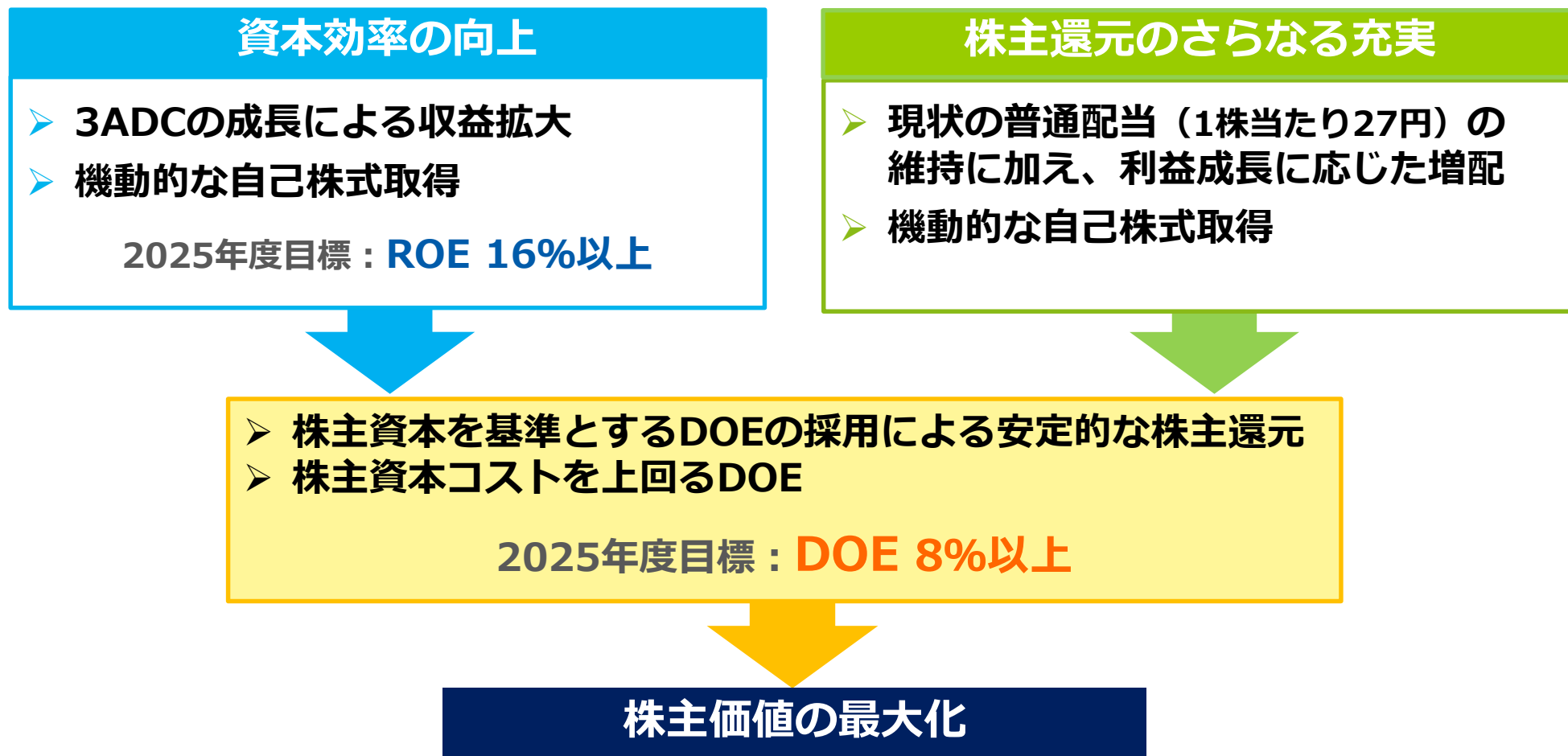
社内のパイプラインの進捗を踏まえた機動的な
①更なる成長の柱の構築に向けた投資(自社、導入)と
②自己株式取得への配分

安定配当と利益成長に応じた増配

現在の手元資金*
約4,000億円

*運転資本を除く手元資金

- ◆ 資本コストを考慮して、資本効率の向上と株主還元のさらなる充実を図ることで、株主価値の最大化を目指す
- ◆ 株主還元のKPIとしてDOE*を採用し、2025年度時点で8%以上を目標とする



*DOE：株主資本配当率 = 配当総額 ÷ 株主資本（親会社の所有者に帰属する持分）

第5期中期経営計画

- ① 戦略の柱 1 : 3ADC最大化の実現
- ② 戦略の柱 2 : 既存事業・製品の利益成長
- ③ 戦略の柱 3 : 更なる成長の柱の見極めと構築
- ④ 戦略の柱 4 : ステークホルダーとの価値共創
- ⑤ DX推進によるデータ駆動型経営の実現と先進デジタル技術による全社の変革
- ⑥ バランスのとれた成長投資と株主還元
- ⑦ 2025年度の計数目標**

2025年度の計数目標

◆ 売上収益
1兆 6,000億円

➤ がん領域売上収益
6,000億円以上

3ADCの投資先行期を乗り越え、
大幅な売上・利益成長を実現し
2030年ビジョン実現に向けた新たなステージへ

売上収益

9,600
億円

3,030
億円

R&D費控除前営業利益*率
32%

2020年度予想

第4期

2025年度目標

第5期中計

投資先行期

利益拡大期

◆ R&D費控除前営業利益*率
40%

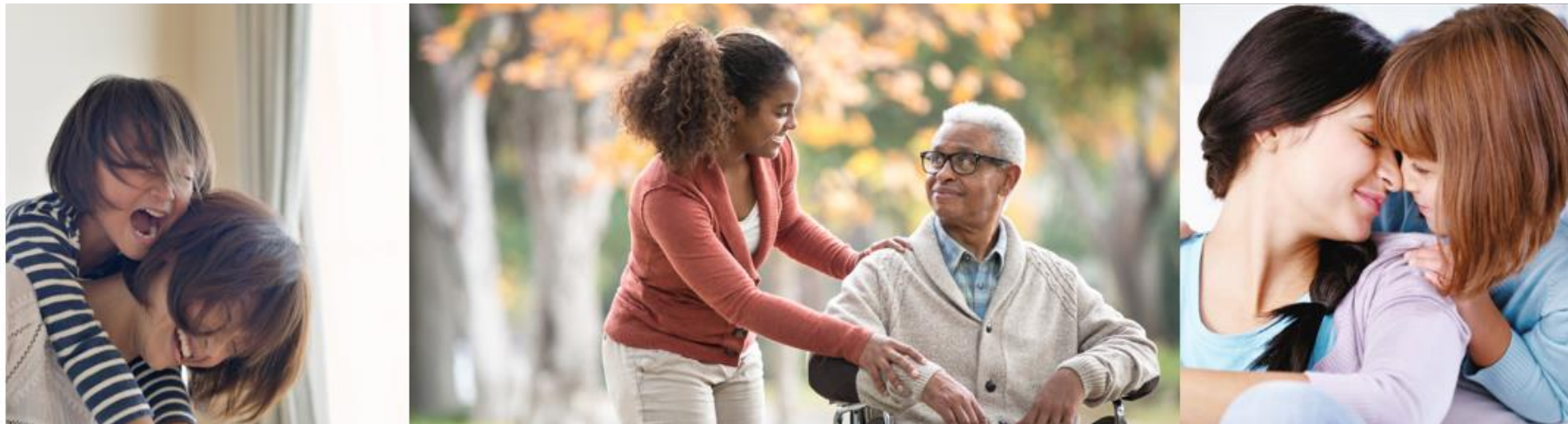
◆ ROE
16%以上

◆ DOE
8%以上

*固定資産売却、事業再編、減損、訴訟等に関連する特殊要因を除く
2025年度為替レート的前提：1USD=105円、1EUR=120円



**第一三共グループは世界中の人々の
健康で豊かな生活に貢献してまいります**



① 当社のESG経営

② 2030年ビジョン

③ 第4期中期経営計画の振り返り

④ 第5期中期経営計画

⑤ **Appendix**



スライド20 (3ADCの上市計画) の試験一覧

ADC	がん種	試験名称	試験内容
エンハーツ	乳がん	DESTINY-Breast01	HER2陽性乳がん、T-DM1既治療
		DESTINY-Breast03	HER2陽性乳がん 2L、vs T-DM1
		DESTINY-Breast04	HER2低発現乳がん 化学療法既治療、vs 医師選択標準治療
		DESTINY-Breast05	HER2陽性乳がん、ポストネオアジュバント
		DESTINY-Breast06	HER2低発現 化学療法未治療、vs 医師選択標準治療
		DESTINY-Breast09	HER2陽性乳がん 1L、vs DS-8201+ペルツズマブ vs THP
	胃がん	DESTINY-Gastric01	HER2陽性胃がん 3L～、vs 医師選択標準治療
		DESTINY-Gastric04	HER2陽性胃がん 2L、vs 標準治療
	NSCLC	DESTINY-Lung01	HER2変異NSCLC、HER2陽性NSCLC 2L～
		DESTINY-Lung02	HER2変異NSCLC 2L～、2用量 (5.4, 6.4mg/kg)
	大腸がん	DESTINY-CRC01	HER2陽性大腸がん 3L
		DESTINY-CRC02	HER2陽性大腸がん 3L、2用量 (5.4, 6.4mg/kg)
Dato-DXd	NSCLC	TROPION-Lung01	NSCLC (actionable遺伝子変異なし)、2/3L
HER3-DXd	NSCLC	HERTHENA-Lung01	EGFR変異NSCLC, 3L

本資料に関するお問い合わせ先

第一三共株式会社
コーポレートコミュニケーション部

TEL: 03-6225-1125 (株式市場関係者の皆様)

03-6225-1126 (報道関係者の皆様)

Email: DaiichiSankyoIR@daiichisankyo.co.jp